人材・キャリア

研修システム販売開始

初任者・実務者の開講支援

メディカル・プラネット

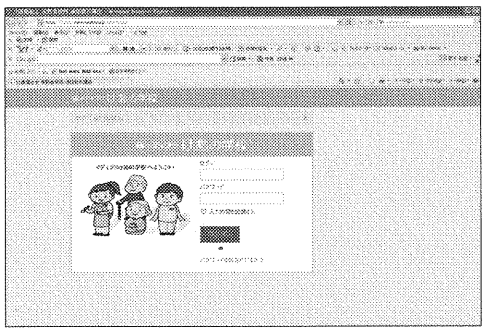
野小生周作 社長

e-ラーニングで時間・コスト削減

介護職員養成校メディプラけあの学校を運営するメディカル・プラネット（東京都港区）は「研修開発・運営支援パッケージ」の販売を開始した。

これは、実務者研修・初任者研修の開講を検討している、あるいは既に開講している学校や事業者向けに、同社が開発した研修システム（e-ラーニングなど）を提供するというもの。システム開発にかかる手間や時間を省き、初期投資を抑えることが可能となる。

これまで初任者研修や実務者研修は郵送による解答の送受と人の手による採点が主流だったが、最近では時間やコスト削減のため、e-ラーニングによる研修システムを導入する養成校も増えてきている。厚労省は2025年までにあと100万人の介護職員が必要との推計を示しており、養成校の果たす役割は更に大きくなっていくため、業務の効率化は必須課題となる。



◀メディプラ けあの学校の実務者研修e-ラーニング画面

パッケージの内容は、同社が開発した教材テキスト、ガイダンス等副教材、添削システム（e-ラーニングシステム、マークシートシステム）一式。

導入費用は、同社の研修システムをそのまま使用する場合（ロゴ、学校名などは指定のものに付け替える）は198万円、独自の教材に合わせて新規でシステム開発する場合は400万円。オプションで受講生管理や証明書の発行といった導入後の運営支援サービスのほか、演習授業の講師派遣も別途行っている。

同社の大下弘樹マネージャーは「0から開発するよりも格段に安く、尚且つ簡単にe-ラーニングによる研修を始めることができます。運営負担の大幅な軽減となるため、毎月・随時受講生を募集できるほか、受講生はネット環境が整っていれば好きなときに学習することができるようになるため、学習意欲を高めることができます」と話す。

研修システムはスマートフォンやタブレット端末に対応させることも可能で、今後要望があれば随時対応を検討していくという。

介護・保育特設エリアも設置

新卒生向け就職イベント開催

ディスコ

転職・求人情報サイト

業界の積極採用エリアも特設し、介護事業者や医療法人、コンサらが参加した。

説明会では介護・保育に関する技術などについて講演した。

主催したディスコの中村洋介キャリアフォーラムグループマネージャーは「クライアント企業からの強い要望があったため、今年4月より

介護・保育業界エリア

訪問介護が半数

受講生アンケートで

ニッソーネット

ニッソーネット（大阪市北区）は今年7月に同社の実務者研修受講者を対象に行ったアンケート調査の結果を発表した。

アンケート項目は①勤務先種別、②受講理由、③（②の理由のうち、介護福祉士受験予定と答えた人に対し）その理由、④受験時期の4つ。

勤務先種別では有料老人ホームが5%、特別養護老人ホームが6%であるのに対し、訪問介護が50%と圧倒的に多い結果となった（図1参照）。

その理由として、訪問介護事業所では利用者40人又はその端数を増すごとに1人以上の「サービス提供責任者」が必要なことや、勤続年数が一定以上の職員や介護福祉士を一定以上の割合雇用している事業所に対し、1日につき6～12単位を所定単位数に加算する「サービス提供体制強化加算」があることなどが考えられる。また、これらの事業者側の理由とは関係なく、自身のスキルアップのために個人で受講申込者数は徐々に伸びていくものと考えていたが、実際には7月開校の「介護福祉士受験のため」が78%で、更にその中でも「実技試験が免除になるから」が70%を占めた。また、基礎研修を修了している人の割合が36%と最も多く、受験時期は2013年度が57%となった。

同社では当初、受講申込者数は徐々に伸びていくものと考えていたが、実際には7月開校の一部コースでは定員数の1・5倍の応募があったという。

2015年度の受験資格改定へ向け、今後は更なる駆け込み需要が予想される。そのため、来年度以降の受験を既に検討している人は早い段階で受講しておくことが望ましい。

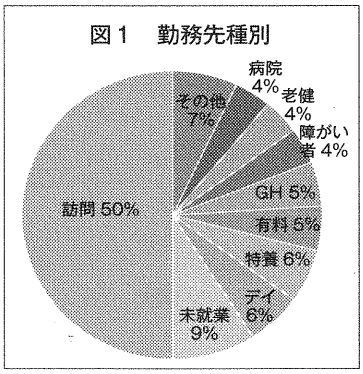


図1　勤務先種別

安全推進セミナー開催

全老健

全老健は今月19日から20日の2日間、施設の安全推進等担当者向けに「平成25年度介護老人保健施設 安全推進セミナー（ひやりはっと分析と苦情対応入門）」を開催する。

老健施設におけるリスクの一大分野として、現安全推進セミナー」を開催してきた。今年度は、昨年好評を得た講師陣で、さらにパワーアップした講義を予定しているという。

当日は老健の施設長や看護師を講師に招き、講義のほかにロールプレイやグループワークなどを行う。

会場はAP東京八重洲